

2025 年 12 月期 中間決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025 年 8 月 29 日

上場会社名 琉球アスティーダスポーツクラブ株式会社 上場取引所 東
コード番号 7364 URL <https://ryukyuasteeda.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役会長 兼 社長 (氏名) 早川 周作
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO (氏名) 田野口 浩太 (TEL)098 (851)8701
中間発行情報提出予定日 2025 年 9 月 30 日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025 年 12 月期中間期の業績 (2025 年 1 月 1 日～2025 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績 (%表示は対前中間期増減率)

	売 上 高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025 年 12 月期中間期	240	-	△38	-	△40	-	△25	-
2024 年 12 月期中間期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1 株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025 年 12 月期中間期	△15.04	-
2024 年 12 月期中間期	-	-

(注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益については中間純損失であるため記載しておりません。
2. 当社は、2024 年 12 月期中間期においては中間財務諸表を作成していないため、2024 年 12 月期中間期の数値及び対前中間期増減率を記載しておりません。

(2) 財政状態

	総 資 産	純 資 産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025 年 12 月期中間期	161	△187	△115.8	△106.40
2024 年 12 月期	-	-	-	-

(参考) 自己資本 2025 年 12 月期中間期 △187 百万円 2024 年 12 月期 △ -百万円

(注) 1. 当社は、2024 年 12 月期においては財務諸表を作成していないため、2024 年 12 月期の数値を記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金		
	中 間	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭
2024 年 12 月期中間期	0.00	0.00	0.00
2025 年 12 月期中間期	0.00		
2025 年 12 月期 (予想)		0.00	0.00

3. 2025 年 12 月期の業績予想 (2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日)

(%表示は対前期増減率)

	売 上 高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	%
通 期	464	-	△77	-	△80	-	△65	-	△37.89	-

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有
直近予想の修正については、本日 (2025 年 8 月 29 日) 公表いたしました「非連結決算への移行及び 2025 年 12 月期個別業績予想、営業外費用 (支払利息) 並びに特別利益の発生に関するお知らせ」をご覧ください。
2024 年 12 月期は連結業績を開示していたため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 中間財務諸表における特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- 1 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - 2 ①以外の会計方針の変更 : 無
 - 3 会計上の見積りの変更 : 無
 - 4 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- 1 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- 2 期末自己株式数
- 3 期中平均株式数

2025 年 12 月期中間期	1,761,700 株	2024 年 12 月期	1,619,700 株
2025 年 12 月期中間期	-	2024 年 12 月期	-
2025 年 12 月期中間期	1,671,910 株	2024 年 12 月期中間期	1,619,700 株

※ 中間決算短信は公認会計士又は監査法人の中間監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料 P. 2 「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当中間会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間(2025 年 1 月 1 日～2025 年 6 月 30 日)におけるわが国の経済は、昨年から引き続き原材料・エネルギー価格の上昇を受け、不透明な状況が続きました。一方で、雇用・所得環境は改善しており、緩やかな回復が続くことが期待されております。

このような経済環境を反映し、沖縄県においても原価、人件費等の経費が増加するなど、依然として厳しい外部環境に置かれているものの、訪日外国人が増加等による需要の増加が見込める状況であります。

当社グループはこのような環境下においても、「夢への道を拓き、明日を照らす光となる。」というミッションのもと、「沖縄から世界へ」を合言葉に各事業を展開してまいりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(スポーツ関連事業)

スポーツ関連事業におきましては、Tリーグ 2024-2025 シーズンにおいて、琉球アスティーダは惜しくもファイナルにて敗戦を期した結果優勝を果たすことが出来ず、シーズン 2 位となりました。業績に関しては新規スポンサーの獲得が鈍化しており、売上高は 46,230 千円、セグメント損失は△56,554 千円となりました。

(飲食事業)

飲食事業におきましては、当中間会計期間は直営店を 3 店舗、フランチャイズ 3 店舗の営業により、売上高は 59,405 千円、セグメント損失は△13,944 千円となりました。

(アスティーダサロン事業)

会員制経営者コミュニティサロンを運営しているアスティーダサロン事業におきましては、会員数が堅調に推移したことに加え、2025 年 6 月に大規模カンファレンスであるアスティーダエグゼクティブサロン 2025 in 北海道での収益を計上した結果、売上高は 135,295 千円、セグメント利益は 89,397 千円となりました。

以上の結果、当中間会計期間における売上高は 240,931 千円、営業損失は△38,884 千円、経常損失は△40,343 千円、中間純損失は△25,142 千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(1) 資産

当中間会計期間末における流動資産は 153,449 千円となりました。

(2) 負債

当中間会計期間末における流動負債は 223,985 千円となりました。

当中間会計期間末における固定負債は 124,933 千円となりました。

(3) 純資産

当中間会計期間末における純資産は 187,050 千円の債務超過となりました。この結果、自己資本比率は△115.8%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、国際情勢不安や米国をはじめとする物価変動や各国の中央銀行による政策金利の引き上げの懸念等によりわが国の経済の先行きについては依然として不透明な状況にあります。

このような環境の中、スポーツ関連事業におきましては、2025 年 7 月に開幕した Tリーグ 2025-2026 シーズンにおいて、琉球アスティーダは王座奪還を果たすべくチームは始動しております。また、経営者の悩みを解決し、参加メンバーの事業成長を支援する会員制経営者コミュニティ、アスティーダサロンの会員も順調に推移しており、2025 年 12 月に開催するアスティーダエグゼクティブサロンにおいても、前年度以上の集客を見込んでおります。

一方で、当社は成長事業であるアスティーダサロン事業に一層の経営資源を投入するため、2025 年 6 月に連結子会社であった九州アスティーダ株式会社(現九州カーナ株式会社)の株式を譲渡するとともに、飲食事業におきましては、店舗の縮小を順次進めており、事業の選択と集中を図っております。

ます。

以上のような取り組みを推進するとともに、わが国の経済活動が正常化することで、業績は改善に向かうものと考えております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当中間会計期間において営業損失 38,884 千円、経常損失 40,343 千円、中間純損失 25,142 千円を計上し、営業キャッシュ・フローは 88,494 千円の支出となりました。その結果、当中間会計期間末において 187,050 千円の債務超過となりました。これにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

今後の施策等につきましては、「2. 中間財務諸表及び主な注記(4) 中間財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載しております。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

当中間会計期間 (2025 年 6 月 30 日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	106,574
売掛金及び契約資産	21,852
棚卸資産	598
前払費用	25,204
その他	738
貸倒引当金	△1,520
流動資産合計	153,449
固定資産	
有形固定資産	0
投資その他の資産	
投資有価証券	23
長期前払費用	1,899
敷金	6,384
長期未収入金	15,263
貸倒引当金	△15,263
その他	110
投資その他の資産合計	8,417
固定資産合計	8,417
資産合計	161,867

(単位：千円)

当中間会計期間 (2025 年 6 月 30 日)	
負債の部	
流動負債	
買掛金	11,234
短期借入金	30,000
1 年内返済予定の長期借入金	29,352
未払金	35,880
未払法人税等	1,669
未払消費税等	3,156
契約負債	105,736
預り金	4,861
その他	2,094
流動負債合計	223,985
固定負債	
長期借入金	124,933
固定負債合計	124,933
負債合計	348,918
純資産の部	
株主資本	
資本金	246,490
資本剰余金	208,990
利益剰余金	△642,930
株主資本合計	△187,450
新株予約権	400
純資産合計	△187,050
負債純資産合計	161,867

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2025 年 1 月 1 日 至 2025 年 6 月 30 日)
売上高	240,931
売上原価	110,807
売上総利益	130,123
販売費及び一般管理費	169,008
営業損失(△)	△38,884
営業外収益	
受取利息	21
利子補給金	27
その他	212
営業外収益合計	261
営業外費用	
支払利息	1,668
その他	50
営業外費用合計	1,719
経常損失(△)	△40,343
特別利益	
固定資産売却益	454
関係会社売却益	15,177
特別利益合計	15,631
税金等調整前中間純損失(△)	△24,711
法人税、住民税及び事業税	430
法人税等合計	430
中間純損失(△)	△25,142

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2025 年 1 月 1 日 至 2025 年 6 月 30 日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純損失(△)	△24,711
減価償却費	-
長期前払費用償却額	232
固定資産売却益	△454
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3,003
受取利息	△21
支払利息	1,668
関係会社売却益	△15,177
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	13,731
棚卸資産の増減額(△は増加)	1,273
前払費用の増減額(△は増加)	△1,779
仕入債務の増減額(△は減少)	△25,899
未払金の増減額(△は減少)	1,295
契約負債の増減額(△は減少)	△33,404
未払消費税等の増減額(△は減少)	△6,334
その他	△36
小計	△86,613
利息及び配当金の受取額	21
利息の支払額	△1,242
法人税等の支払額	△660
営業活動によるキャッシュ・フロー	△88,494
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	-
有価証券の売却による収入	10,000
関係会社の清算に伴う収入	-
関係会社株式の売却による収入	15,177
敷金の差入による支出	△318
投資活動によるキャッシュ・フロー	24,859
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△14,676
株式の発行による収入	138,015
財務活動によるキャッシュ・フロー	123,339
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	59,703
現金及び現金同等物の期首残高	46,870
現金及び現金同等物の中間期末残高	106,574

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社は、当中間会計期間において営業損失 38,884 千円、経常損失 40,343 千円、中間純損失 25,142 千円を計上し、営業キャッシュ・フローは 88,494 千円の支出となりました。その結果、当中間会計期間末において 187,050 千円の債務超過となりました。これにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、子会社である九州アスティーダ株式会社（現九州カリーナ株式会社）株式全株を売却し、さらに飲食事業においては、前事業年度末に営業を休止した 2 店舗に加えさらに 2 店舗の閉鎖を行い、事業の赤字縮小に努めるとともに、成長事業であるアスティーダサロンに経営資源を集約してまいります。

また、今後も必要に応じて資金調達を行うことにより、運転資金の安定的確保を図ってまいります。

以上の対応策を実施することにより、事業面及び財務面での安定を図り、当該状況の解消及び改善に努めてまいります。しかしながら、上記の対応策等は実施途上であること、特にアスティーダサロンの運営においては将来の売上見込についての予測を含んでおり、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、中間財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当中間会計期間において、第三者割当増資を実施し、払込みを受けました。この結果、資本金が 71,000 千円、資本準備金が 71,000 千円、それぞれ増加し、当中間会計期間末において資本金が 246,490 千円、資本準備金が 208,990 千円となっております。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

当中間会計期間 (自 2025 年 1 月 1 日 至 2025 年 6 月 30 日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調 整 額 (注) 1	中間損益 計算書計 上額 (注) 2
	スポーツ 関連事業	飲食事業	アスティー ダサロ ン事業	計		
売上高						
一時点で移転される財又は サービス	10,958	58,638	17,565	87,163	-	87,163
一定の期間にわたり移転さ れる財またはサービス	35,271	766	117,729	153,768	-	153,768
顧客との契約から生じる収 益	46,230	59,405	135,295	240,931	-	240,931
その他の収益	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	46,230	59,405	135,295	240,931	-	240,931
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	46,230	59,405	135,295	240,931	-	240,931
セグメント利益又は損失 (△)	△56,554	△13,944	89,397	18,898	△57,783	△38,884

(注) 1. セグメント損失の調整額△57,783 千円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失は、中間損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 当社は、2024 年 12 月期中間期においてはセグメント情報等を作成していないため、2024 年 12 月期中間期の数値は記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。